

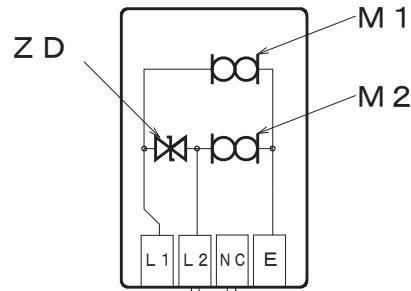
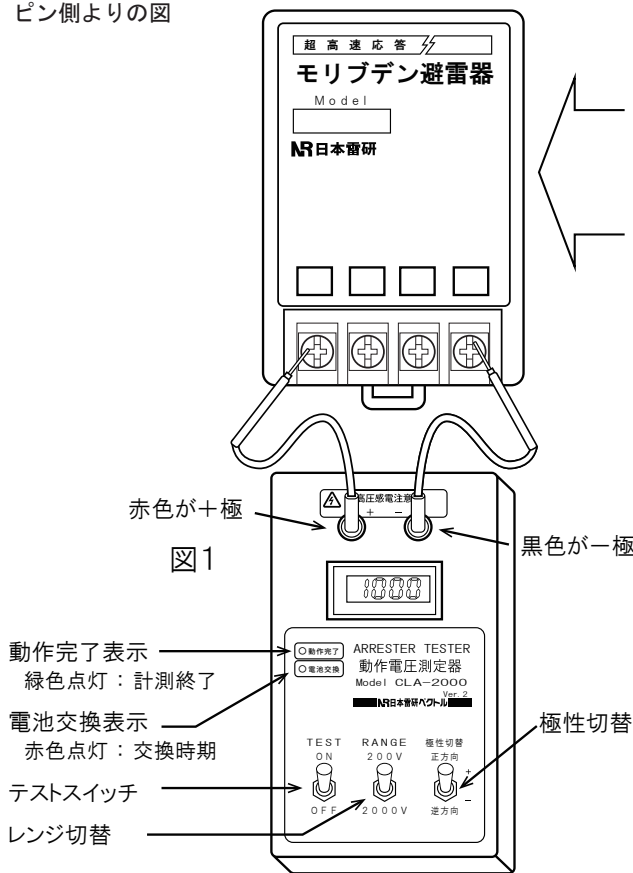
避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に1mAを流れたときの電圧）を測定して判断します。

## ●端子配列と結線図

### 本体部

ピン側よりの図

### 本体部 正面よりの回路図



ZD：シリコン素子 M1-2：モリブデン素子

### 点検前・・・ご注意

- ① 配線を外して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。  
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 試験回数につきまして  
2～3回程度で終了してください。  
モリブデン式のみでなく酸化亜鉛式、ギャップ式なども劣化の原因になることもあります。

### 点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。  
交換までの雷サージ対策となります。

### チェッカーの動作について

チェッカー CLA-2000は、1mAの電流制限つきです。1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。数値はTESTスイッチをOFFにするまで表示します。

## ●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。
- ② 測定する端子間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。  
但し、M1、M2の短絡時は300V以下となり、自復は不可能です。交換してください。

<形式NR-24-1>

各素子	測定端子	印加電圧 (レンジ)	確認内容 下記の範囲内であること	交換限界
ZD	L1-L2間（無極性）	DC200V	29～36V DC	左記の範囲以下（劣化進行が速い）
M1	L1-E間（無極性）	DC2000V	1000～1500V DC	300V以下（自復不可能）
M2	L2-E間（無極性）	DC2000V	1000～1500V DC	300V以下（自復不可能）